

家きんでの鳥インフルエンザワクチン使用国について（2025年6月時点）※1

（参考8）

国・地域名	開始時期	接種対象	ワクチンネーションの種類	接種ワクチンの種類	接種群でのサーベイランス※2
香港	2003年	全鶏群	予防的ワクチン	・ H5(H5N6 clade 2.3.4.4h, H5N8 clade 2.3.4.4b)/H7 (H7N9) 3価不活化ワクチン（注射接種）	全接種群でのサーベイランスを実施（おとり鶏の使用は2022年10月以降中止）
インドネシア	2004年	商用家きん農家（庭先養鶏農家は対象外）	予防的ワクチン	不明	コンパートメント施設や、生体市場に送られる鶏のサーベイランスを実施（全接種群では実施できていない模様）
中国	2004年	鶏・水禽類	予防的ワクチン	H5不活化ワクチン、H5 NDVベクター2価ワクチン、H5 DEVベクター2価ワクチン、H5ベクターワクチン等	全接種群でのサーベイランスは実施できていない模様（新たな野外株の出現を監視するために実施）
メキシコ	2022年10月	原種鶏・種鶏・採卵鶏	緊急ワクチン？（11～6月に接種）	不明	不明
ウルグアイ	2023年5月	種鶏・採卵鶏	緊急ワクチン？（2023年2月以降の野鳥や庭先養鶏農場での発生を受けた使用）	・ 不活化H5N8 Clade 2.3.4.4ワクチン（頸部皮下接種） ・ マレックベクターワクチン（DIVA対応） ・ 鶏痘ベクターワクチン（DIVA対応）	可能な限り多くの接種群でのサーベイランスを実施
フランス	2023年10月	商用アヒル	予防的ワクチン	・ HPAI H5抗原のサブユニットワクチンとNDの不活化ワクチンの混合（頸部皮下接種・DIVA対応） ・ HPAI H5 mRNAワクチン	全接種群でのサーベイランスを実施

※1 この他、エジプトやベトナムも継続して鳥インフルエンザワクチンを使用している模様であるが詳細は不明。オランダは、2025年3月からコマーシャル採卵鶏農場でのパイロット摂取を開始。

※2 WOAHコード（point 2 of Article 10.4.28）は、全接種群（all vaccinated flocks）でウイルス循環がないことを確認するための検査を実施するよう求めている。